

と小笠原母島石灰岩より *Amphiroa* sp. を報ぜられしに過ぎず。珊瑚藻族の化石は一般に少く世界を通じて白堊紀より第三紀の間に *Amphiroa* 四種、*Corallina* 一種、*Jania* 二種、*Arthrocardia* 二種の報告あるに過ぎず。

今回著者は前記久保井の御坂層より *Jania Lemoinii* n. sp. 及び遠江國榛原郡相良男神山石灰岩より *Corallina elliptica* n. sp. を記述せり。(G. KOIDZUMI)

遠藤保太郎、高瀬毅一兩氏：—グミの根瘤粘菌 [蠶絲學雜誌、第四卷、第三號、pp. 114—130, t. 1—2. 1932].

グミ類殊にナツグミの根には大小、時に拳大の根瘤がある、根瘤の組織中特に皮膚部の細胞内には粘菌の一種なる *Tetramyxa Elaeagni* Y. YENDO が存在し、菌體の一部は細胞間隙にも蔓延してゐる、粘菌體は其發育程度により又部分的に性狀を異にし營養原形體、黃褐原形體及び凝固原形體の三種に區別さるゝが何れも Diploid で核は十二箇の染色體を有す、各核は減數分裂により六箇の染色體を有する孢子母細胞となり、各孢子母細胞の染色體は直接分裂をなして四分孢子となる、孢子は水中に發芽して糸狀の發芽管を延伸し次第にアメーバ狀となるも游走性を缺く、此アメーバ狀體は *Myxamoebogametes* なるべく二つづゝ接合して *Myxamoebozygote* となりてグミの根に侵入し、細胞内にて多數の *Myxamoebozygotes* が癒合して一大 *Fusionplasmidium* を形成するものゝ如し、此粘菌は空中の遊離窒素を固定する能力ありてグミと共生するものと推察さる。(G. KOIDZUMI)

モルトン氏：コケシノブ屬の一新亞屬ブエシア C. V. MORTON: Buesia, a new subgenus of Hymenophyllum from Peru in Bot. Gaz. XCIII, p. 336 (1932).

ワシントンの U. S. National Museum の C. V. MORTON 氏は南米ペルーよりコケシノブ屬 *Hymenophyllum* の一新種 *H. mirificum* MORTON を記載し、なほ本新種を type として發見者 C. BÜES 氏を記念する一新亞屬 *Buesia* MORTON を發表した。

本亞屬の著き特徴は、葉柄及び中軸上にコケシノブ屬諸種に絶えて見ない眞正の鱗片を有することである。この鱗片は線狀鑿形で基部は二、三の細胞が並び、先端は漸次細くなつて單一の細胞糸に終つてゐる。孢子囊の托は稍球形であるが、此の點では嘗て PRANTL 氏が *Globosa* と云ふ節にまとめた南米の *H. caudiculatum* MART. ジャバの *H. junghuhnii* v. d. B. 及びニューージーランドの *H. dilatatum* Sw. の三種